農家のための最新情報

あぐり最前線

土壌分析をしましょう！ ―コスト低減に向けて―

JAでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(200g)を採土し、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所・氏名・TELと、水稲・野菜(キャベツ、ハクサイ…等)・果樹(ミカン、カキ…等)など品目名を記入して、11月15日(金)までに各支店へご持参ください。分析結果は12月中旬頃にご連絡致します。

市場出荷休日カレンダー（野菜・果樹）

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 文化の日	4 振替休日	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23 勤労感謝の日
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27 冬期休耕終了日	28 春期休耕終了日
29	30	31				

×は出荷できない日　■は日曜・祝日等

水稲

今年の生育期間中の気温は、7月は天候不順のため気温は低くなりましたが、その後8月に入り天候も回復し生育は順調に推移しました。降水量については、7月以降は多く、8月下旬以降は平年並みとなり、日照時間は7月以降少なく、8月下旬からは多くなりました。

生育初期の天候の影響もあまりなく生育し、幼穂形成期はいずれの品種も平年並みとなり、出穂期は早生・中生品種では平年並み、晩生品種では、8月の高温の影響で2日程度早くなりました。

害虫の発生は少なかった一方、中晩生品種（9月中旬以降）でトビイロウンカの発生が多く、一部の水田では被害が見られました。

●未熟粒・胴割粒

未熟粒は粒の全体もしくは一部分が乳白色になったもので、胴割粒は玄米の内部に亀裂が生じる現象です。両者に共通する原因の一つとして、登熟期以降の気温（特に夜温）が高いことが挙げられます。

次年度の対策

① 土作り
作土を深くして根が働きやすい環境を作るとともに、生育後半まで根の活力を維持するために重要です。

② 適正施肥
登熟期間中の葉色が高く維持されると発生は少なくなります。

③ 出穂期以降の水温を下げる
出穂以降、夕方以降の水の入れ替えや、かけ流しなどで水温を下げると効果的です。

④ 登熟時の早期落水防止
落水時期は可能な限り遅らせ、収穫時に田面を極端に乾かしすぎないようにしましょう。

◎玄米の品質改善に土作り資材を投入しましょう。

・農力アップ（100kg／10a　＊秋落ち水田では140kg／10a）

茎葉の強化、根の保護、保肥力の向上が期待でき、水稲の安定生産、品質向上に役立ちます。

キャベツ

●播種
▽11月1日～12月5日　※SE

●定植
▽11月1日～10日　※春のかほりSP③

●病害虫防除（本田防除）
▽11月上旬　※星岬・恋岬SP
・フェニックス（顆）　2000倍（前日／3回）
・ウララDF　2000倍（前日／2回）
▽11月中旬　※春のかほりSP①・めぐみ
▽11月下旬　※春のかほりSP②
・トルネードエースDF　2000倍（7日／2回）
・アディオン（乳）　2000倍（3日／5回）
・ファンタジスタ（顆）　2000倍（3日／3回）

◎菌核病
結球期以降に発生し、下葉から灰褐色に変色しやがて腐敗します。発病した結球葉をはがすと、内部に白色綿状のカビを生じ、ネズミの糞のような菌核を形成します。9～11月の間に降雨が続くと発生を助長しますので予防を心掛けてください。

▽予防
・ロブラール（水）　1000倍（7日／4回）
・ファンタジスタ（顆）　2000倍（3日／3回）
・シグナムWDG　1500倍（7日／2回）
▽発生初期
・アミスター20（フ）　2000倍（7日／4回）
・カンタスDF　1500倍（7日／2回）

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、（収穫何日前まで使用可能か／通算使用可能回数）を表しています。農薬は農薬安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。

例）表記が（14日／2回）の場合…収穫14日前までに2回使用可能

また、菌核は土壌中で越冬するため、被害株は菌核を形成しないうちに圃場から持ち出し処分してください。

●追肥
▽定植活着後　※春のかほりSP③
・ニューパワーユキ262（60kg／10a）

●収穫
▽11月1日～12月15日　※星岬

ハクサイ

●病害虫防除（本田防除）
▽11月上旬
※11月どり品種
・アクセル（フ）　1000倍（前日／3回）
・トランスフォーム（フ）　2000倍（3日／5回）
・バリダシン（液）5　500倍（3日／3回）
※12月どり品種
・フェニックス（顆）　2000倍（前日／3回）
・コルト（顆）　4000倍（3日／3回）
・シグナムWDG　1500倍（7日／3回）
※年明けどり品種・防寒
・トルネードエースDF　2000倍（7日／2回）
・ウララDF　2000倍（前日／2回）
・キノンドー（フ）　1000倍（30日／5回）

●追肥
定植活着後（2週間後）に、ニューパワーユキ262（120kg／10a）、および結球開始期にニューパワーユキ262（80kg／10a）を施用しましょう。

●生理障害対策

◎石灰欠乏（アンコ）
植物体へのカルシウム吸収量が不足することで発生します。主な原因は、
(1) 土壌中のカルシウム不足
(2) 土壌の乾燥
(3) 窒素過多
(4) 過湿などで根が障害を受けた

場合などが挙げられます。特に土壌の乾燥が影響しやすいため、適宜灌水とパフォームCa（500倍）の葉面散布を行ってください。

●病害虫防除

◎べと病
晩秋および春の気温の低い多湿期に発生が多く、結球後期、球が老化すると葉柄部に黒いシミおよび斑点（組織内べと）が発生します。老化させず、早めの収穫を心掛けてください。

▽予防
・ランマン（フ）　2000倍（3日／4回）
▽発生初期
・プロポーズ（顆）　1000倍（7日／2回）
・アミスター20（フ）　2000倍（7日／4回）
▽11月1日～30日　※スピードドーム
▽11月15日～12月15日　※ピクセル

＊ハクサイは、TPNを含む農薬の使用回数が合計2回までです。プロポーズ（顆）とダコニール1000はTPNですので、使用回数に注意してください。

◎黒斑細菌病
気温が高く、降雨の多いときに多発しています。また、発生すると防除しにくいので予防散布に重点をおいてください。なお、発病は肥料切れで助長されます。

ブロッコリー

●定植
▽11月20日～12月10日　※グランドーム

●病害虫防除（本田防除）
▽11月中旬　※アーサー
・アクセル（フ）　1000倍（前日／2回）
・ウララDF　2000倍（前日／2回）
▽11月中旬　※クリア（10月中旬定植）
・アディオン（乳）　2000倍（3日／5回）
・トルネードエースDF　2000倍（14日／2回）
・シグナムWDG　1500倍（14日前／1回）
▽11月下旬　※クリア▽9月下旬定植
・アクセル（フ）　1000倍（前日／2回）
・ウララDF　2000倍（前日／2回）
・ナレート（水）　1000倍（14日／2回）

●追肥
・ニューパワーユキ262（80kg／10a）
定植活着後に施用しましょう。追肥と同時に土寄せを行ってください。

●収穫
▽11月1日～30日　※スピードドーム
▽11月15日～12月15日　※ピクセル

ダイコン

今月から収穫が始まります。収穫時期を逃さず、若どりを心掛けてください。なお、病害虫に注意してください。

●病害虫防除

◎白さび病（ワッカ症）
11月上旬からの降雨の多い低温の年に発生が多いです。特に、夜が低温で翌朝気温が上昇する場合に注意が必要です。多湿になりやすい密植を避ける、予防散布の徹底などで対策します。
・ランマン（フ）　2000倍（3日／3回）
地際部まで十分濡れるように散布することが重要です。

◎アブラムシ類
秋期に乾燥すると発生が多くなります。新葉付近に群棲することが多く、防除を怠ると生育不良になるばかりでなく、出荷物への混入や排泄物（甘露）に発生するすす病の原因となります。葉裏、葉の中心部に薬剤がかかるよう、丁寧な薬剤散布が必要です。
・ウララDF　2000～4000倍（前日／2回）
または
・モスピラン（顆）　2000～4000倍（14日／1回）

青ネギ

秋まきの作型が11月以降に収穫を迎えます。収穫期が近づくと徐々に水を切り、葉に青みを持たせるようにしてください。

●病害虫防除

◎コナガ

薬剤抵抗性が発達しやすく、異なる薬剤のローテーション防除が大切です。

・ディアナSC　2500～5000倍（前日／2回）

・アニキ（乳）　1000～2000倍（3日／3回）

◎べと病・さび病

気温15℃前後で降雨が多いと発生しやすくなります。

・アミスター20（フ）　2000倍（3日／4回）

カキ

今月は富有柿の収穫が最盛期となります。

出荷基準を厳守して収穫し、果梗部は短く切り果実を傷つけないようにしてください。

●収穫のポイント

・果粉（果実表面の白い粉）はできるだけ落とさないようにしましょう。果粉は、新鮮さの度合いを表します。

・他の果実に傷をつけないため、果梗枝は完全に切り落としましょう。

・雨天の日の収穫などで果実が濡れている場合は、黒変果防止のため扇風機などで乾燥させてから出荷しましょう。

●施肥

・ニューわかやま味一ブリケットまたは、わかやま配合（140kg／10a程度）

果実生産で消耗した樹を回復させるため、また貯蔵養分を蓄えられるよう、落葉するまでに施用してください。

●病害虫防除

◎黒変果

黒変果は、着色始めの9月中旬から成熟期にかけて増加します。発生が多く見られるのは、風通しが悪い・湿度が高い・日照時間が短い園地です。防止対策として、マルチの敷設・摘葉処理・雑草の刈り取りを行い、園内の湿度を下げることで地面を乾きやすくしましょう。

ミカン

極早生の収穫、出荷が始まりました。適期収穫を心掛け、丁寧かつ品質をよく吟味して収穫しましょう。

●品質向上対策

収穫期に雨が多いと浮皮果が助長されるため、水溶性カルシウム剤（バイカルティ）を引き続き散布してください。

果実の肥大に伴い、枝が下垂してきます。地面まで下垂した枝については、枝つり・枝支えを行いましょう。

●施肥

・ニューわかやま味一ブリケットまたは、わかやま配合（100kg／10aを目安）

施用時期が遅れると肥効が悪くなるため、11月上旬には施用を終えてください。

●病害虫防除

○果実腐敗防止

収穫1週間前に散布することで予防効果を高めることができます。

・トップジンM（水）　2000倍（前日／5回）

または

・ベフラン（液25）　2000倍（前日／2回）

ウメ

落葉が始まり休眠期に入ります。今月は土作りと整枝・剪定を行いましょう。

●施肥（土壌改良）

・新ふりかけ堆肥eco（200kg／10a）

・苦土セルカフミン（120kg／10a）

●整枝・剪定

剪定作業が年明け以降にずれ込むと、蕾が大きく膨らみ、貯蔵養分が無駄に消耗されるため、年内に終わるよう計画的に作業を進めましょう。

●苗木の植え付け

落葉果樹の苗木の植え付けの適期は、11～12月です。老木樹および不良品種の改植、受粉樹の不足園への補植を行いましょう。また、植え付け後は乾燥を防ぐため、敷き藁などを施用し灌水しましょう。

モモ

11月下旬頃から苗木の植え付けを行います。また、落葉を終えて少し経った樹から整枝・剪定を始めてください。

●苗木の植え付け

乾燥には比較的強いですが耐水性が弱いため、排水が良好で通気性の良い土壌を好みます。植え付けの前には、完熟堆肥などの土壌改良剤を投入するとともに、排水対策を行いましょう。また、風当たりの強い園では防風樹・防風ネットなどの防風対策を行ってください。

川中島白桃など花粉のない品種では、受粉樹を混植する必要があります。

イチジク

気温が低下し、収穫は終盤を迎えます。

収穫後、園内に残っている葉や果実は病害虫の越冬場所となりますので、園外へ持ち出すか焼却しましょう。

●施肥

・ニューわかやま味一ブリケット（80kg／10a）

地温が10℃以下になる頃から根の活動が停止し、翌年3月頃まで休眠期に入ります。そのため、11月上旬までに施用してください。

刀根早生柿　目ぞろえ会

9月中旬、柿の早生品種「刀根早生」の出荷本番を迎えるにあたり東山東の総合撰果場で目ぞろえ会を開きました。今年産は8月の気温高と適度な降雨により大玉傾向で生育。炭酸ガスで完全脱渋を行うので甘くて歯応えはシャキシャキです。

10月中旬からは「平核無柿」「富有柿」に切り替わり、11月上旬まで京阪神、京浜の市場を中心に出荷します。JA柿部会の藪正隆会長は「適熟採果を心掛け、消費者に喜んでいただける柿を出荷していきたい」と話していました。

コマツナ・ホウレンソウ　目ぞろえ会

管内の西ブロックで栽培されているコマツナとホウレンソウの出荷ピークに備えて9月、西部営農センターで目ぞろえ会を開催しました。4月上旬まで京阪神市場に出荷します。昨年は台風の影響で出荷量が約7割に減少しましたが、今年は復旧が順調に進み、平年以上の出荷を目指しています。

当JA産は色やボリューム感が良く、市場からは高く評価されています。JA河西地区葉菜部会の増田恵一郎会長は「出荷規格を遵守し、良質な葉菜類を市場に出荷していこう」と呼び掛けました。

パワーアシストスーツを試用

肥料や農作物などを運搬する際、足腰への負担を軽減する補助機能を備えたパワーアシストスーツを試用し、9月に中央営農センターで新米の搬入作業を行いました。

パワーアシストスーツは4・7キロと軽量でコンパクト。バッグを担ぐように装着し、内蔵された電動モーターで「持ち上げ」「持ち下げ」「中腰作業時の姿勢保持」「斜面での歩行」をアシストします。手元のリモコンでアシスト強度の調整をすることができ、体格や作業内容に合わせて筋肉の負担を最小限に抑えることを実現。着用したJA職員は「持ち上げるのが楽で足腰の負担が格段に少ない」と感想を述べていました。

当JAは試用を通じて、農作業の負担と疲労を軽減するアシスト技術の実用性を検証するとともに、スマート農業の普及に向けた研究を重ねていきます。

11月・12月お申し込み

限定キャンペーン

※納品は、お申し込みの翌月以降となります。
※ボルト、交換工賃別途。

耕運爪が3割引!!

詳細はお近くの支店または営農センターまでお問い合わせください。

使用済廃プラスチック回収のお知らせ

ご希望の方は最寄りの各支店・営農センターまたは営農生活部まで、事前に希望処理数量をお申し出ください。

◆回収日時

12月3日(火)7:00～10:00

◆費用

約34円～42円(税抜) ※産業廃棄物処理法に基づく処理(kgあたり)

◆注意事項

①農ビ(塩化ビニール)と農ポリ(ポリ系ビニール)を回収します。
②農ビと農ポリは分別して回収しますので、分けて搬入してください。
③ウェーブロックなど糸入りビニールやマルチフィルム、劣化が進んだ(ボロボロの)ものは避けてください。
④丁寧にたたみ、最大10kg程度にそろえて十字に紐をかけてください。
⑤事前に申し込みのない場合は、回収できません。
⑥搬入は、午前10時までに行うようお願いします。

申し込み締め切り　11月18日(月)

詳細は、営農生活部☎473-9402までお問い合わせください。

UIターン就農相談フェア

県内で新たに農業を始めたいと考えている方を対象に、就農に関するさまざまな内容について相談をお受けします！　また、先に新規就農された方の話を聞くことができる「新規就農セミナー」も同時に開催します。皆さま、お気軽にご参加ください。

in和歌山　開催のお知らせ

☑申込不要

日　時

11月17日(日) 10:00～15:00
※新規就農セミナーは1回目11:00～12:00
2回目13:00～14:00

場　所

和歌山県JAビル1階アグリテラス・めぐみ館
(和歌山市美園町5−1−1)
※新規就農セミナーは2階和みホールA

相談受付内容

- 就農相談(研修、資金、農地、雇用就農など)
- 農林大学校進学相談
- 林業就業相談
- 移住相談
- 一部の市町担当者による各市町の支援や受入についての相談

新規就農セミナー

- セミナー講師による就農体験談の発表と意見交換会

※内容を変更する場合がございますので、開催日前にHPなどでご確認ください。

お問い合わせは和歌山県農林大学校就農支援センターまで
TEL　0738−23−3488　　Eメール　e0716011@pref.wakayama.lg.jp
HP　https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071601/sintyakujouhou/index.html

牡羊座 3/21～4/19
全体運　物事を邪推しやすくなる暗示。意識してプラスの発想に転換を。神社や仏閣に足を運ぶと心が落ち着きそう。
健康運　無理しがち。体をいたわることで開運に。
幸運を呼ぶ食べ物　カブ